

コリント人への手紙第一 第1章 4～5節

「神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。それは、私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストによってあふれているからです。」

神は、と語り始めるこのみことばに聞き入る。その次には、どのような苦しみのときにもと語る。いかなる苦しみにあってもと語る。そのときなにが起こるのか。苦しみの渦中であって起こるのは何かを語る。神は、私たちを慰めてくださる。神に慰められている者の言葉である。苦しみのただ中で慰められている者から苦しみにある仲間への言葉である。その言葉に留まることなく、つぎの言葉が届く。

こうして、私たちも、苦しみにある私たちが受けた神の慰めで、どのような苦しみにある仲間を慰めることができると語る。苦しみが苦しみに終わらないいのちを生きていると語る。苦しみに神の慰めを体験し、他者への慰めの器となる。それは、私たちにあるキリスト体験である。私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストにある私たちにあふれているからです。キリスト者の苦しみに創造的であり救いである。十字架の主に栄光あれ。

2023年5月27日